



北方四島もしっかり警備。各藩の警備地図(1860年)

この観能会は、千葉県睦沢町の歴史民俗資料館の久

東京・千駄ヶ谷へ

この3月9日、東京の国立能楽堂(渋谷区千駄ヶ谷)で狂言と能を観た。能の題目は「桜川」。日向国(宮崎県)で母子で暮らす一人。生活苦の母を思い自らの身を買ひに売る息子(名は桜子)。それを知った母は子を探して、西へ西へと旅立つ。3年後、桜の季節に、常陸国(茨城県)の桜川に来て、川面の桜の花びらを、なりふり構ねず網で掬っている狂女と化した母。花びらが桜子かと思つてのこと。

最近はニュースで、親殺しや子供いじめが伝えられるが、熱心に子供を探す姿は感動的ですらある。

「桜川」では、花見の僧侶なかに桜子がおり対面する。観客が涙を流す場面である。

野一郎館長が企画して、20年間も続いている恒例の町民バス観能ツアーである。その一行は、能の台詞とその意味、さらに場面展開について、バスの中で説明を受けている

企画である。

トネルを初めて通過し

た。世界最長53.85km

の青函トンネルは、開業

30周年であるという。

このトネルは、シールドマシンで掘削されたが、世界最初のシールド工法の特許は、イギリスのエンジニア、マーク・ブルネル(1769年~1849年)によって発明された。ブルネルの子

イザムバードはトネル、

鉄道、船、橋などの機械

土木エンジニアで、挑戦

するエンジニア」と呼ばれている。筆者は、彼を紹介する研究や著作をしてきたので、今回の青函トンネルの経験は、感慨ひとしおであった。

新函館駅から新幹線で

函館に向かった。JR東

日本の大人の休日チケットを利用した。新幹線の

通になつていて、今回

に一興となるだうとの企画である。誘いを受けた筆者自身も共感した。

トネルを初めて通過し

た。

トネル

53.85km

の青函

</div